

み、前年度より7.3%、1,131万2,000円減の1億4,384万6,000円の計上でございます。3項特別損失につきましては、300万円を計上し、冬期概算料金納入による精算還付金などがございます。

次に35ページをごらんください。資本的収入及び支出についてご説明申し上げます。収入でございますが、1款1項企業債につきましては、水道水源開発施設整備事業債、第4次拡張事業債、老朽管更新事業債など、総額で4億440万円計上いたすもので、新たに清水町浄配水場の更新工事を実施することから、前年度と比べ1億5,350万円増となっております。2項分担金及び負担金については、消火栓設置工事として240万円を一般会計から負担いただくものがございます。3項国庫補助金については、水道水源開発施設整備費、老朽管更新事業の国庫補助金5,332万5,000円を予定いたすものがございます。4項その他の補償金については、公共下水道事業及び山形県事業に伴う配水管布設の補償費として、725万円を見込み計上いたしております。5項出資金については、水源開発事業に係る一般会計からの出資金1,888万3,000円でございます。

次のページ、水道36をお開きください。支出でございますが、1款1項建設改良費につきましては、前年度に比べ3億7,071万円増の7億7,662万3,000円を予定いたすものがございます。内訳でございますが、1目事務費については職員1名分の給与費など1,052万4,000円を計上し、2目第4次拡張事業につきましては、工事請負費、設計委託料など5億9,600万円を計上し、前年度に引き続き3カ年計画の最終年度となりますが、平山浄水場中央監視制御装置改造工事等13年度から実施しております老朽管更新事業、新たに施設の老朽化にともない本年度から3カ年計画で清水町浄配水場更新事業などを実施いたすものがございます。3目水源開発費につい

ては、長井ダムの使用権に係る負担金で、19年度長井ダムの建設事業費113億3,000万円の1000分の5に相当する負担額に企業債利息を含め、5,889万9,000円を計上いたしております。4目配水施設整備につきましては、県道市道などの道路改良工事及び公共下水道工事に伴う配給水管布設外工事や消火栓新設工事などを見込み、1億670万円を予定いたしております。5目資産購入費につきましては、450万円の計上で量水器や器具及び備品購入費などがございます。

2項企業債償還金につきましては、前年度より9.4%、1,800万8,000円増の2億1,011万1,000円を計上いたしたところでございます。

以上が平成19年度長井市水道事業会計予算の概要でございます。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

○**渋谷佐輔委員長** 概要の説明が終わりました。ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前 11時55分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔委員長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

## 平成19年度長井市各会計予算案 に関する総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** これより質疑を行います。ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

## 蒲生吉夫委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 初めに順位1番、議席番号17番、蒲生吉夫委員。

ここで、佐藤仁議会事務局長が復席しましたのでお知らせします。

○**17番 蒲生吉夫委員** 予算総括通告しております3件について順次ご質問を申し上げたいと思います。

最初に、市民スキー場の管理運営委託と冬季スポーツの振興についてということでありますけども、まず、18年度と新年度予算の大きな変更点についてお聞かせを願いたいと思いますが、委託料が大幅に減額されているわけであります。18年度の市民スキー場の予算が814万円から、19年度は523万円というふうになっておりますが、その内訳については、白山森スキー場が283万7,000円、道照寺平スキー場が239万3,000円。開設の期間について大きく変更あった総務常任委員会の協議会に出された資料を元に今、質問をしているわけですが、12月29日から3月9日までのナイターと土日・祝日というふうにご説明されておりますけども、開設期間とその条件などについて、この積算した資料、教育長はお持ちですか。どういうふうにして、この金額を積算したか、まず、お聞かせを願いたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長。

○**大滝昌利教育長** 文化生涯学習課長の方で、答えさせていただきます。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** お答えを申し上げます。

ただいま委員からご質問ありましたとおり、12月については12月29日から開設をいたしまして、3月の9日までの開設の日程で、白山森スキー場でございますが、考えているところでご

ざいます。基本的に12月29日、30日が土曜日と日曜日でございますので、ここは全日を開くと。あと、1月の5、6についても土日でございますので、ここは全日、全日といえますのは日中とナイターまで含めてでございますが、開くというふうなことで、それ以外の土日についても全日を開設いたしまして、平日にいたしましてはナイターのための営業というふうな考えでいるところでございます。そういたしますと、リフトにいたしましては、日中の開設日が19日、ナイターの開設日が72日というふうに積算をしたところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 日程的にはわかりましたけれども、そこに当てるスタッフ、運営する人の人数ですね。それを積算したものだというふうに思いますが、圧雪やなんかする費用というのはその中には見込まれているのでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** お答え申し上げます。

先ほど委員が述べられました283万7,000円の中には、リフトの運行賃金、ヒュッテの運営にかかります賃金、圧雪車の運転にかかります賃金、その他、夏季の間の賃金なり、始業終業時の超過する部分の賃金などについても積算しているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 私が聞いたかったのは、その部分なんです。そういう積算した数字があって、今回のこの数字が出てきたんだと思いますね。あるんだったらそれは後でいいです。積算した資料あるわけですね。それ、いただけますでしょうか、後で。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** 私が手元に持っております資料は、後で委員の方にお示ししたいと思います。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 私は今回のこの運営の方法の変更は、かなり大きいと思います。

例年ですと、22日、もしくは23日あたりが安全祈願祭をやって、当日の午後からか、翌日あたりから大体運営始めるわけですね。その日程というのは、小中学校が休みになる時期だと思えます。その日程はお父さんやお母さん仕事に行ってますから、子供らが休みになっても、ほかのスキー場に行くなんてできないんですよ。だから、近くの人たちは大体休み中はスキーの好きな子は毎日通うんだと思えます。だから、シーズン券が、こう売れるんだと思えますね、早く雪降れば。昨年度、17年度のスキー場はそういうことだったと思えますね。スキー場開きの日は大雪で車も動かなくなっただけ。翌日から何とかして動かしたんですね。

その意味では、今回29日からというふうにする根拠というのは、私ちょっとそこが理解できないですね、一つは。シーズン券の販売見込みだけが、うんと大きくしてあるんですね。多分、スキー場使用料として157万6,000円だというふうに思いますが、その数字は後でお聞きしますが、その期間がなければ、年末年始のところの、子供らの休みの期間、日中開けない、動かさないとすれば、シーズン券はうんと売れないんじゃないかなというふうに。特に、日中のシーズン券ですね。ナイターのシーズン券はまた別だと思えますけども。それについてはどんなふうにご考えておられますか。見積もっている数値についてもお聞かせください。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** お答え申し上げます。

委員がおっしゃいますとおり、確かに日中のシーズン券については、例年よりは少なくなるだろうなというふうには考えております。ただ、シーズン券のうち、ナイターのシーズン券の分

については、若干伸びるのではないかなというふうな考え方をしているところです。実は今回の議案にも出させておいておりますが、体育施設条例の改正の中でも、スポーツ少年などにも含めまして、今までは全額免除でございました。その分については、50%の減額というふうな対応をさせていただきたいというようなことで議案をお示しさせていただいておりますので、そういったところを踏まえまして、積算をさせていただいたところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 私は、今回の施策はこの部分を年末年始の子供らの休みの期間の日中をまず一つあけてもらいたい。動かしてもらいたいというのが一つです。

もう一つは、ずっと学校の授業をやってますね。授業のやっている期間も、白山森のはやめにして、道照寺の方でやろうという計画のようですね。私はやっぱり、それはないんじゃないかというふうに思うんですね。改めてスキー場をつくれって言ってるんじゃないですよ。今あるスキー場を運営して、授業をする方法はあるんじゃないですかと、こういうことを言っているわけで、話によると市民スキー大会なんか傾斜角度などから考えても、やっぱり白山森スキー場の方がずっとスキー大会なんかやりやすいと。市民スキー大会なんかはあれでしょう、白山森の方のような計画になりますか。そこはどうですか。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長

○**大滝昌利教育長** 年末年始の開設またはスキー授業での開設ということで、学校の方ともいろいろ話をしているわけですが、今現在、日中、学校が終わって、放課後にスキー場へ行く、日中というか普通曜日ですね、行く子供たちは1週間に1から2回というのが五、六人、三、四回というのが3人ぐらい。大体10人ぐらい。それも低中学年の子供というような話でした。

授業については、今年度は西根小学校八日間のスキー授業があったと、スキー大会も含めて。それを何とか工夫していただいて、もう少し日数を減らしていただいて、その部分については白山森のスキー場の方で授業ができるような方向で検討をしたいというふうに思いますし、年末年始のスキー場の開設についても、委託料の範囲内で、これもお聞きしますと今年は28日、白山森スキー大会が予定されておったわけですが、あいにく中止だったわけですが、それ以後というのはほとんど利用客も少なくなっているというふうな話も聞いていますので、3月分あたりを閉鎖して、その分を年末年始の方に振り向けるようなこともスキー場運営委員会の方々と話し合いをしながら、検討をし、調整をしていきたいというふうに考えているところです。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 今、質問したことに答えてない部分があります。市民スキー大会はどこにする予定ですかと。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** お答え申し上げます。

市民スキー大会につきましては、白山森スキー場を利用して開催したいというふうに考えております。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 授業もそうですけれども、市民スキー大会は小学生大会も兼ねてるんですね。その意味では練習するところが別のところで、大会は白山森というふうに私はなかなか大変なのかなと。もちろんできるわけですが、いわゆる記録会というものかどうかわかりませんが、やっぱりふだんやっているとの方でやった方が絶対伸びるわけですよ、タイム的にもね。私はそこはやっぱり一致させていく必要があるんじゃないかなとい

うふうに思うんです。市民スキー大会に参加する子供らのタイムと、白山森スキー大会に参加する子供らのタイムというのは、白山森スキー大会の方がずっと上だと思いますね。それはやっぱり、それなりの地域のレベルを上げていく力が、私はあるんだと思います。そこはやっぱり大事にしていく必要があるんじゃないかなというふうに思うんですね。その意味では、日中お客さんのいないときに動かさなくて言うわけでも何でもありません。今、教育長が言われたように、もう少しフレキシブルに使えるようなスキー場にしておいた方がいいのかなというふうに思うんです。

どうしてかという、私らのこの住んでる地域というのは、子供らにとって遊ぶところがないんですよ。特に冬場はないですね。夏場は走っていけば済むのかもしれないですけども、そうでなくて、映画館一軒あるわけじゃないでしょう。ゲームセンターが近くにあるわけじゃないでしょう。すると、何をするかというと家の中でしょうがないからゲームをうちの中ですという、こういう環境はやっぱり決して教育的にもよくはないというふうに思います。その意味では、学校授業もそうですけれども、今年度の学校授業の日程を組んでたものを見させていただきましたけれども、運行していた日が15日ですね、大会も含めて。違いますか。15日近く日程が入っているんですけど、圧雪するのは午前だけ使っても、同じように圧雪しなきゃいけないんですね。その意味では、午前と午後をそれぞれの学校のところをびちっと詰めて、授業ができる日数も詰めていけば、私はそんなに毎日長期間運行しなければならないなんて感じは持ってないんですね。ここはもうちょっと工夫する必要があると思います。学校の授業も関係もありますから、それは一朝一夕にはいかないわけですが、やっぱり授業をやっていくというこのことはとても大事ななという

+

ふうになっているんです。

特に私も子供がまだ小さいころ、3年生までかな、ロープに乗れるところからちょっと滑れるようになるあたりまでのところに、班構成するから、その教える手伝いをしてくれて言われて、手伝いをしましたけれども、便利がいいのは、アンバーリフトはいきなりその時点に来たら、ぐっと引っ張られるけど、ロープはちょうど滑ってスピードを調整できるので、低学年にとっては大変いいスタイルだと思うんですね。そこの部分も時々ロープ切れたりなんかして、修理しているようですけれども、やっぱりある施設を丁寧に安全に運行するにはどういうふうにしていくかという部分については、もうちょっと詰めていかなきゃいけない部分だなというふうに思います。

学校授業も白山森の方を使っているのは、伊佐沢、致芳、西根、今年は雪がなかったのも、このとおり実施したかどうかというのはわかりませんが、それに北中ですね。これでいくと、人数的にうんと少ないところも確かにあります。ありますが、ここは工夫をしながら、うんと詰めて、その中で安全運行をしていくというような考え方に立っていただければありがたいなと思うんですが、教育長、そこについて見解をお聞かせください。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長

○**大滝昌利教育長** さっきも申し上げたんですけども、詰めることは可能なんだと思います。今、西根でも低学年、中学年、高学年という3クラスというか、それを分けて、スキー授業をやっているようですが、それぞれの学年で、200名ぐらいの児童数ですから、60人ぐらいですよ。低と中を一緒にいても、百二、三十人。南北中学校ですと、1学年150名ぐらいいるわけですから、低・中一緒にしても同じ時間帯ぐらいでやれると。それをずっと詰めていけば、八日間のスキー授業なりスキー大会の日数はぐっと詰

められるはずなんですけど、やっぱりそれぞれ事情があるというのは、何か保護者の方々がやっぱりどの学年にも出たいと。例えば、兄弟のある人であれば、1年生と3年生の兄弟があれば、1年生にも出たいし、3年生にも出たいという親御さんもおられると。そうすると、その部分は一緒にできないなというのも学校の方では考えているようで、いろいろ学校の事情はあるようですが、何とか詰めてですね。

ただ、今、白山森を使っている伊佐沢、致芳、西根、北中、これ、全部白山森でやれるようにされるかどうかというのは、やっぱり委託料の範囲内でないと、これはできませんので、そのへんの調整も含めながらやっていきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** その分については、わかりました。

年末の休みのところの期間、これはどういうふうにしますか。その期間。例えば、今年ですと23日あたりが日曜日だったかな、12月の、今年のカレンダーはちょっと見てませんが、22か3あたりが日曜日で、大体この辺から学校が休みに入るのではないかなというふうに思います。土曜日から入るかどうかはわかりませんが、そこから子供らの休み期間中、その運営についてはどんなふうに考えてますか。

○**渋谷佐輔委員長** 大滝昌利教育長

○**大滝昌利教育長** 例年、12月の第4土曜日あたりから開設してるんで、その辺は子供らは年末の休みに入ってるわけですが、やっぱりそれも日中、白山森スキー場については、委託料の範囲内でどの程度年末年始開設できるかということも検討して、開設をしていきたいというふうに考えています。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 12月22日が土曜日で、23日が日曜日ですね。大体この辺は休みに入る

んだと思います。

それで、予算の範囲内ということですから、私が考えているのは自然を相手にして運行するかしないかを定めるわけですから、委託契約なんですね、これは。どういう契約を結んでるか、契約書を見てないからわかりませんが、もう少しスキー場の運営委員会と協議をしながら、使いやすいようにもうちょっと委託契約のあり方を検討できないかなというふうに思うんですね。ここからここまでするというふうに決めたんだから、あとはしないんだということではなくて、要するに雪が早く降れば、早く学校休みに入ったらすぐにも運行できるような、運営できるようなスタイル。降らなければ、後ろにずれていくだけの話ですから。

そういう日程をもう少し細かく協議して決められるような契約のあり方が、私は大事なんではないかというふうに思うんですね。金額と期間を決めたから、あとはこれでいくんだということではなくて、そこの幅を持たせるところが大事なんではないかなというふうには思うんですが、そこはいかがでしょう。

○**渋谷佐輔委員長** 那須宗一文化生涯学習課長。

○**那須宗一文化生涯学習課長** スキー場の運営については、スキー場の運営委員会の方々に委託してお願いをしておるわけでございます。私どもとして、予算を、委託料の額を積算するに当たりまして、何日間の運行で1日あたり何人の方々が従事するというのをきちんと積算しないと額もできないわけでございまして、例えば12月が雪が降らなくて、1月にずれ込んだとか、雪が早く降って、12月の末から運行、開設とかそれはいろいろ自然条件としてあるわけですが、例えば12月の早いうちから開きますと、例えば私どもとして、この範囲内でお願いしていますという額の中でいきますと、2月末から3月の部分の運行が大変厳しくなるという事情にもなっているわけですね。予算的に潤沢であれば、

何とかして3月も運行できるということも可能なわけでございますが、限られた予算の中でどのように配分していくかというふうな部分については、当然委員会の皆様方のご意見をお聞きしながら、そこはある程度柔軟には対応できると思いますが、委員もご承知のような状況でございますので、委託料の額の範囲内で調整をさせていただきながら、そこはいろいろ協議をさせていただく中で、開設をしてまいりたいというふうには思っているところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 予算が提案になってるわけですから、何回か強調された委託料の範囲内とどういうふうになっているわけですが、ことしみたいに雪が少なければ、動かしたくたって動かせない状況があるわけですから、それは当然だというふうに思います。私が大事にしてほしいなと思っているのは、「ろくに雪がないのに、毎日明かりがついてるんでないか」という批判の声もあるんです。ありますが、私が大事だと思うのは、意外とスポーツ少年団がそこに雪がある限り、毎日くるという、それが全体のレベルを私は上げてるんじゃないかなというふうに思うんです。

スポーツなんてそうですけれども、まず、施設がちゃんとしていることと、指導者がちゃんとした指導者がいることが大前提だと思うんですね。その意味では、施設のにもまずあるやつをちゃんと使っていこうということがもう一つ。それとやっぱりスキーの指導者としては、大変立派な指導者がいるわけですから、市内には。スポーツ少年の団体も長井スキースポ少とハイムスキーの方と二つあるようですけども、それぞれの特徴を持った団体であって、冬場のスポーツとしてはすごいものだなというふうに思います。

私はやっぱりうらやましいと思うのは、私はスキー場のないところで育ってますから、スキ

+

一はその後少し覚えていただけなんです。ただ幸いにしてスケート場があったんで、スキーよりはスケートの方がもうちょっとできると。やっぱり周辺の環境によって、やるスポーツというのは変わってきていいし、やっぱり冬場のスポーツとしてこんなに恵まれたところはないわけですから、大事に施設として使っていく必要があるのかなというふうに思います。

限られた予算の中でということではありますが、これまで以上に十分に細やかに相談をしながら進めてもらいたいというふうをお願いをしたいと思います。これで1番目のスキー場の管理運営と冬季スポーツの振興については終わりにしたいと思います。

次にあやめ公園入場料の見込みについて、2番目の件についてお聞かせを願いたいと思います。

商工観光課長、18年度当初で予算を組んだのは2,299万円ですね。今回補正した金額がありますね、897万円のマイナス補正ですね。このマイナスになった原因が書いてありました。豪雪とさくらんぼのおくれ。こればかりではないのでないかなというふうに思いますけども、豪雪とさくらんぼのおくれですね。その時期とあやめ公園というのは、大体一緒になれば、一番入場者数が多いですし、徴収日が長くなるんですね。どうもこの原因はそこだけではないんじゃないかというふうに思うんですけれども、どうですか。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** お答えいたします。

特に大きな要因については、今委員がおっしゃられましたように、あやめの開花がおくれた。それから、さくらんぼの時期とうまく合わなかったというふうなこと、そのことによりまして、ツアーを見合わせるといふような状況になったと。この点が一番大きいというふうに考えております。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** これもするとお天気頼みなんですね。積算気温が一定程度出てこないと花は咲かないわけですから、あやめの花はですね。まあ、日照時間もあるでしょう。しかし、そこは商工観光課長、私はちょっと違うんではないかなというふうに思うんですよ。去年の3月の定例議会、ちょうど今の時期にやってたんですね。そのときには、去年はもう豪雪は決定してたんです。12月22日から降り始めて、ずっと毎日除雪車が出てたわけですから、豪雪はもうそこで決定してたんです。そこでこういう予算を組んだんですよ。本当はこれまでの観光施設使用料の、あやめ公園の入園料の予算の組み方というのは、前年度の入場料収入を、今年度の入場料収入にしてきたという経過があるんですよ、を予算にしてきたという。そういう意味では、既に議会をやってた去年の3月の時点では豪雪はもう決定していて、そこは開花時期もおくれることははっきりしてたんじゃないですか。そうじゃなかったですからね。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** お答えいたします。

時期の問題かと思いますが、予算を検討するというのはその前の11月ぐらいから本格的に行われるというふうなことで、その段階で冬場の雪の状況をつかんでいたかどうかというのは、ちょっと疑問のところがございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 予算の内示会は2月の中旬なんですよ。そういう問題では、私はないと思います。今回の19年度の予算を膨らませてあるというふうには私は思うんですけども、それはことしはいわゆる暖冬であることがまず確定的にあったからなんですよ。その意味で余計に組んだんだと思います。それとも、それ以外にも入場者、入園者数がふえるという何か秘策ですね、商工観光課長お持ちですか。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** お答えいたします。

19年度の積算に当たりましては、これまでの16年から18年度の状況をかんがみまして、検討させていただいたわけですが、一つは「やまがた花回廊キャンペーン」といった形で、旅行代理店との関係がある程度いい形に流れてきているというふうなこと。それから、4月から6月までの集中的なキャンペーンを行うというふうなテーマとして、花回廊というふうなことで、長井市としては大いに期待をしたいというふうなことがまず1点ございます。

それから、18年度のあやめにおきまして、16年、17年に状況の厳しかったあやめの育成栽培の管理技術について、ある程度の目安がついたというふうなことがございまして、開園日に合わせて対応することを目標にしながら、さらにこれまでの状況から考えまして、15年度を目標にしたいということで設定をさせていただいたものでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 15年度の予算ですか。

入場者数ですか。2,169万円ってなってますけど、その数字ですか。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** 金額ということではなくて、入園者の見込みを15年度を目標としたというふうなことでございます。15年、16年と必ずしもいい状態ではなかったと。その前の15年の数値を何とか回復したいというふうな気持ちでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** その収入を見込んだ2,764万4,000円。会館使用料もありますね、その部分を除いて、個人と団体の見込み数を積算した数字をお聞かせください。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** お答えいたします。

大人につきましては、2万5,500人。それから、大人の団体でございますが、2万2,300人、子供1,000人、子供団体を800人というふうに考えてございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 今、子供団体と言いましたか。もう一回。

○**渋谷佐輔委員長** 齋藤理喜夫商工観光課長。

○**齋藤理喜夫商工観光課長** はい、そうです。団体に入っている子供を子供の団体というふうに呼ばせていただきました。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 2,700万円というのは、ちょっと見込み過ぎだなというふうに思います。きのうあたりですか、産建委員会の協議会の方に提出された資料を私もいただいたんですが、平成8年のところで入園料収入が3,280万円なんですね。ここまで回復しないと、なかなかこの数字の達成は難しいんだと思いますね。今年度の補正をしたパーセントを計算してみましたか、+  
商工観光課長。40%マイナスですよ、40%。私、計算したんです、何%マイナス補正したんだろうと、40%マイナスですよ。普通は私はちょっとここは見込み過ぎだと、絶対見込み過ぎだと思えます。また、これは途中でマイナスを補正しなきゃいけなくなると思いますよ。なぜ、ここにこういうふうに言うかということ、これは見込んで一般会計に入る予定ですから、使ってしまうんですね。そうでしょう。その差額分も含めて使ってしまうんですよ、一般会計に入るわけですから。だから、言ってみれば、単純に言えば、先食いしてしまう可能性が出てくるなという。

これは商工観光課長にだけ、今質問していますが、そうじゃないです。ほかのところもそういう傾向のあるところが見受けられます。要するに収入予算を多く見積もって、支出予算をうんと低く見積もっている。例えば、私の担当す



る生活保護費の支出なんかは、こんなに減るわけはないんですよ、絶対。マイナス幾らってこう書いてあったのを覚えてますけど、こんなの絶対減るわけがないです。生活保護世帯も人数もふえてる傾向ですから。

だけでも、支出の方でそれしか組めないから、マイナス予算を組んで。そういう傾向が、別に商工観光課長にあやめ公園の関係だけ聞いておりますけれども、そうでなくて、私は同じようにこれもマイナス補正を何%もせざるを得なくなるのかなというふうに思うんです。皆さんは予算を組むプロですから、こんなに差があっというわけがない。絶対ないです、40%も差があるなんていうのは。

私らが初めて公園に入る人数、全くつかみどころなくて組むのとわけ違うわけですから、そういう意味ではもうちょっと、こう正確にしてもらいたいというふうに思うのと、だから、「何か秘策があるのか」というふうに聞いたわけですが、公園の使用料は要するに日照時間や温度によって、いつ花咲くかによって、うんと変わってくるというふうに言ったように、私はもっと大事にしてほしいところがあるんです、商工観光事業として考えるなら。長井の特産品があるでしょう。野菜で言うと、レインボープラン。もうやっぱりブランド品ですよ。そういうものだから、地域に長井に行けば、これを買えるぞと。そういうものがないと、目玉のものがないと、なかなかやっぱり難しいんだと思いますね。

地元の人にはあやめだんごはどっかにつくってるから、1シーズンに1回ぐらいは食べようかなと思うわけですが、そういうところの経済効果を上げていくんだとすれば、長井の特徴を生かしたものをやっぱりどのように販売をしながら、地域の経済の活性化をさせていくかと、その分はないとだめだと思うんですよ。そのへん何かないですか。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

長井のブランドというふうなお話が出されたわけなんですけど、首都圏の方に行きますと長井のあやめ公園というふうな、あるいはあやめの長井というふうな評価、あるいはお言葉をいただくというふうなことを感じております。長井にとっては観光の大きな柱であるというふうなことは考えてございます。そのあやめ公園、あやめまつりを機転として経済的な展開を図っていく必要があるだろうというふうなご意見でございますが、一つは事業所の皆様方とご協力を得ながら市内の事業所さんの優待券と言いますか、割引券というふうな展開も考えていきたいというふうに考えてございます。

また、市内の特に市民の皆様方にもう一度あやめ公園に帰ってきていただくために、特に土日等を利用した夜のにぎわいというふうなものもぜひ考えていきたいというふうに考えております。

○渋谷佐輔委員長 17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 そういうことが大事なんだと思います。直接的に入場料で稼いでいこうなんて、いかにも短絡的過ぎるなというふうには私は感じていたんで。

観光事業が一番大事なのはエージェントの力もあるかもしれませんが、一番大事なのは口伝えだと思えます。「ことし長井に行ったらこれが良かった」ということが広がっていくのが一番大事だというふうに思います。あんまり差が出ないように頑張ってもらいたいところだなというふうに思います。

あともう少しでありますから、最後の項に入らせていただきます。有価物売り払い収入とごみ収集場管理補助金について、市民課長にお尋ねいたします。売り払い収入として予算に計上されているのは650万円ですね。その部分というのは、全体の売り払い収入の中の業者が収集費用を抜いた部分ではないんですよ。全部で

すよね、これ。どういうふうな計算になっているか、そこをお聞かせください。

○**渋谷佐輔委員長** 小泉良一市民課長。

○**小泉良一市民課長** お答えをいたします。

有価物の収集につきましては、収集料金を算定をいたします。そして、収集した有価物を売り払うということで売り払う料金を一緒に算定していただきまして、両方を一緒に入札していただくというふうな形で、長井にとって有利な業者さんをお願いをするという形を取っております。そのときの売り払いの金額が650万円でございますが、積算と致しましては過去の有価物の集まる数量から731トンということで、1キロ当たり9円というふうな単価を掛けたところでございます。9円というのは少し高いお値段でございますが、入札をかけると18年度の実績として8.5円何がしと出てまいりますから、決して間違いではないというふうに考えたところ です。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 今、金属類とか銅線なんてのは、使ってるものを持っていくやつがいるということですから、それぐらいそういうものが上がってるんだと思いますね。特に北京のオリンピックに向かって、えらく消費が伸びているようで、主にこういうものが中国に行く部分が多いらしいですね。ですから、最近、新聞販売店自身が古紙を集めていますね。かつては考えられなかったことだと思います。やっぱり、利ざやが生まれてくるようになって、その部分を自主的に集める新聞販売店が出てきたんだと思いますね。これ逆ざやになれば、またやめますよ、どこも。金払わないと持って行ってくれないようになれば、やめるわけですけども。

今のところ、こういう経済的な情勢ですが、今回問題に私がしているのは、400カ所あるごみの収集場、これに年間2,000円ずつ補助金を

出していて、80万円だったものが50%マイナスの1,000円ですね。そこはどういうふうにこの1,000円というふうにした根拠はというふうになるんでしょうか。

○**渋谷佐輔委員長** 小泉良一市民課長。

○**小泉良一市民課長** 1,000円の根拠ということでございますが、これはごみの管理につきましては各地区にごみ減量推進委員をお願いをしまして、そしてごみ収集場ごとにごみ収集の補助員を置いているところでございまして、そういった方々がいろいろごみの管理、例えば不適切な排出がされたときに詰めかえていくとか、あるいは排出者の方に差し戻しをして、収集し直してもらうというようなことをしていただくというご苦労をおかけしているところで、そういったところに補助ということを出したいというようなことで積算をしたところでございまして、15年のときに1カ所当たりのアンケートをしたわけですけども、取り置きごみの数、それから取り置きの回数、こういうふうなことで出しまして、それを処理する時間を勘案して、時間あたり1,000円というふうな形でのことでお金に換算すると、2,830円というふうな金額が出てまいりました。そこに有料袋でございますから、241円というふうな袋を6枚あたり使っておられるというふうなことがあったもので、それで3,171円とこう出ますが、そのうち2,000円くらい、半分程度、半分強なるわけですけども、まあ2,000円程度でどうだろうかということで、80万円の額が出ました。

今回につきましては、いろんな歳入不足からすべての事業について緊縮的な財政を組まれるというふうなことでございまして、当初これについてはゼロ査定というふうなことがございました。いろんな地区長さんであるとか、衛生組合長さんであるとか、そういった方々とのご相談の中から長井市でできる限度として、今半分というふうなことでお願いをしていったという

+

ことでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** そうですね、15年のときには置き置きごみの袋数に掛け算して行って、説明がついたんですよ。

今回は、そういう説明がつかない予算なんです。特に言ったように、売り払い収入が650万円もあるわけでしょう。これは15年当時は考えられなかったと思いますよ、この金額は。逆だったと思いますね、逆にやっぱり払ったんだと思います、この当時は。

今、子供会か何かを中心にやってる集団回収だっけでしょう。それに対する市の持ち出し分ってなくなってきたわけでしょう。それを考えていくと、ここの部分の経済的な理由がうんと私は貢献してると思います。その意味では、これ例えば1カ所について2,000円だけやってるように思いますけれども、地域的にはこれに上乗せしてやっているんじゃないんですか。

そこをどういうふうにか調査しておりますか。

○**渋谷佐輔委員長** 小泉良一市民課長。

○**小泉良一市民課長** 各地区ごとの調査は私どもの方では行ってはおりませんが、今回のごみ収集所補助金がどのようなことで地域の方にまわっていくかということ、それぞれの地区からお聞きをしました。

そうした際には地区の地区長さん方々のところで、代議員というふうにおっしゃってますが、そういったことでごみの減量の勉強会をした後、地区長会をして、さらに勉強会をして、その後の懇親会の中でそれを使うというふうなことで、実際そのごみの補助員という方にたどり着いているかということ、決してそうではないというところもございましたし、例えば中央地区で言えば、ごみを分別をちゃんとしましょうというふうなステッカーをつくられて、そして中央地区に配布をするという形で、ごみの減量というところに使用されてるところもございました。

た。

伊佐沢ではごみの勉強会を補助員の方を集めましての勉強会をして、その終わった後に懇親会をするというふうな中での使われ方もございましたし、それぞれの地区、地区でいろいろだというふうに思います。それぞれ地区でどのようなお金の集め方をなさっているかはちょっと存じ上げないところでございます。

○**渋谷佐輔委員長** 17番、蒲生吉夫委員。

○**17番 蒲生吉夫委員** 大体のところは費用を上乗せしてやってるんですよ。というのはどういう意味かということ、きょうも私、プラスチックごみの日だったんで持って行ったんですけども、雪前にあって、きょう降って、あいてなければ掘って扉を開けるようにしなきゃいけないなんて思ってスコップは持って行ったんです。だけど、私が行った時間にはきれいになってました。そういう仕事もやってくれてる人はいるんですよ。それはだれかということ、主にやっぱり、こういうふうに担当してる近くの人がやってるんですよ。それぞれ交代にやってるかもしれませんが、ことし、まだ雪少ないですから、あれですが。

時間ないですから、あと1回で終わります。ごみの収集の責任は市にありますね。行政がしなければならぬように、法律的にできてます。あそこの中に入った資源のものも、これは勝手に持って行っては悪いようになってますね。法律的に持って行った人が負けてますから、そうなります。

長井の私はごみの分別の方式というのは、すごいすぐれていると思います。これはやっぱりレインボープランで生ごみを中央地区内だけですけれども、分けたというのはやっぱりごみがブランド化したんだと思います。どうしてかというと、リサイクル法ができて、生ごみもリサイクルしなきゃいけないという法律ができたのは、四、五年前ですね。そのときに、炭にしたいの

で、生ごみをもたらしてもらえないかと。それも、生ごみだけのやつ。要するに、プラスチックや何かが入ってないやつ。レインボープランで集めたような、あのごみもらってもらえないかというふうに言われた。当時の担当者からあげられないと、レインボープランのごみはブランドですから。しょうがないから、当時の長井病院の残さいあったものを、これなら2回分ぐらいであればもらわれると。それをもたらって行って、炭にしたんですね。炭をつくる機械を実験する人だったんで。そんなこともあって、私は長井のごみの分別というのは、本当にすぐれてるんだと思います。これはだれの手でもなくって、こういう制度をつくって、少額ながら補助金を出してきて続けてきたという成果だと思うんです。これが逆転の方向にいて困るなというふうに思うんですね。2,000円から1,000円にしたから逆転するとは言いませんよ。けども、そういうことの積み上げで長い時間掛けて今の体制ができてきたというふうに思うんです。この考え方、違ってますでしょうか、どうですか。

○**渋谷佐輔委員長** 小泉良一市民課長。

○**小泉良一市民課長** お答えをいたします。

補助金があるから、ごみの管理がきちんとされてきたかどうかということになりますと、かつては、衛生組合の方に160万円なりの補助金を出してきた時代がありましたから、いろんな補助という形で回っていたのかもしれませんが、基本に立ち返ってみれば、ごみ収集場の設置であるとか、管理であるとかというのが、地区や使用者の方をお願いをしているところでございまして、地区もそれはわかってきていて、そして、常にきれいな状態に置きましょうということで、市も住民の皆さんもみんなわかっておられるわけです。市は収集の義務がありますから、収集の際には散らかさないように集めたり、散らかった場合には掃除をしていく。そういうふ

うな協働の作業でやってきたんだと思います。

そこで、お金のことでそれが壊れるかという、決して私はそうではないというふうに願いたいところでございますけれども、今の長井市の状態はやっぱり80万円を40万円にせざるを得ないというふうな状態を何とぞご理解をいただきたいというふうに思っているところでございます。

### 蒲生光男委員の総括質疑

○**渋谷佐輔委員長** 次に、順位2番、出席番号9番、蒲生光男委員。

○**9番 蒲生光男委員** 私が通告してますのは2点ですが、最初に2番目の収納率の方からちょっと質問させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

総務・文教常任委員会協議会に出されました、1月末現在の市税等の徴収状況ですね。それから、昨日税務課長にお願いしまして、2月末日現在の徴収状況の資料をいただきました。2月末現在で、市税等の滞繰分を含めて現在、今、5億5,100万円ほど。それから、国民健康保険税で3億3,600万円ほど。税外収入で1億2,100万円ほど。合計10億1,000万円ぐらい、またこれから入らなければならないということになるわけですが。1月末では11億5,000万円ぐらいだったですから、この間に1億4,200万円ほど徴収されたってことになってますが。最初に税務課長にお伺いしますけども、これの最終的な見込み、これをどのように踏んでおられますか。

○**渋谷佐輔委員長** 中井 晃税務課長。

○**中井 晃税務課長** 2月末の見込みを見ますと、現年度につきましては前年度より収納率として、上がっております。これから、5月の出納閉鎖末の間まで、すべての納期が到来したものの税